

第 349 回金沢眼科集談会 プログラム

日 時 令和 4 年 12 月 18 日 (日) 10 : 00 ~ 13 : 00

会 場 ホテル金沢 2F「ダイヤモンド」

※現地開催を予定しておりますが、新型コロナウイルス流行の状況により、ハイブリッド開催に変更させて頂く可能性がございます。

連絡先 : 921-8641 金沢市宝町 13-1 金沢大学眼科学教室

電話 (076) 265-2403 眼科事務室直通

F A X (076) 222-9660 眼科事務室直通

mail : ganjimu2@med.kanazawa-u.ac.jp



(JR 金沢駅東広場から徒歩で約 1 分)

(北陸自動車道 金沢東 IC から車で 10 分 北陸自動車道 金沢西 IC から車で 15 分)

- ・参加費は 2,000 円です。
- ・本学会は専門医制度生涯教育事業 (No.59003) として認定されています。
(1.5 単位申請中)
- ・デジタルプレゼンテーションに限ります。
- ・パソコンはご自身のものをご持参ください。

共催 : 金沢眼科集談会 千寿製薬株式会社

※次回は、令和 5 年 4 月 16 日 (日) ホテル日航金沢にて開催の予定です。

特別講演Ⅱ 12:00~13:00

座長：杉山和久（金沢大学）

「眼底画像検査の進歩」

京都大学大学院医学研究科眼科学 教授

辻川明孝先生

角膜・中間透光体は透明であるため、中枢神経でありながら網膜は非侵襲的に観察することができる。直像鏡・倒像鏡に始まり、眼底カメラの登場により、眼底は肉眼で観察され、記録できるようになってきた。このような眼底検査によって網膜の詳細な観察・記録が可能となり、様々な眼底疾患の病態理解が得られてきた。更に、今世紀に入って、光干渉断層計の導入により、硝子体、網膜から脈絡膜の詳細な断層像が得られる様になった。当初は粗かった断層像も技術の進歩により、後眼部の詳細な3次元の観察が可能となり、様々な眼底疾患の病態理解が深まったと共に、眼科診療を一変させたことは間違いない。

更に近年は、広角眼底撮影、補償光学適応走査レーザー検眼鏡、OCT Angiographyなどの新しいテクノロジーが導入され、これまでは観察できなかったような広範囲の網膜の観察、視細胞などの細胞レベルでの観察、毛細血管の観察が可能となってきた。このような新しい技術によって、眼底疾患の病態の理解が深まると共に、治療戦略の進歩を遂げてきた。本講演ではこのような眼底画像検査の進歩と今後の展望について解説する。
